

J.S.Bach Inventionen

バッハ インヴェンション

第6番 ホ長調 BWV777

- 楽曲分析と演奏法 -

著者：市花 真弓

目次

はじめに、バッハの作品を演奏するにあたって	3
1. バッハ「インヴェンション」第6番 E dur BWV 777 楽譜	4
2. フレーズの演奏について	6
3. バッハ「インヴェンション」第6番 E dur BWV 777 第Ⅰ展開部の楽曲分析と演奏法について	7
4. バッハ「インヴェンション」第6番 E dur BWV 777 第Ⅱ展開部の楽曲分析と演奏法について	10
5. バッハ「インヴェンション」第6番 E dur BWV 777 第Ⅲ展開部の楽曲分析と演奏法について	13
6. 楽譜に3～5のアナリーゼの内容を表記しました。 テンポ、強弱も記しました。	15

■はじめに

2003 年度からメールマガジンの配信システムを利用しました音楽講座としまして、「バッハ インヴェンションを弾いてみよう！- 楽曲分析と演奏法 -」の発行を始め、2012 年に PDF 書籍版に移行致しました。思いがけず、多くの皆様にご利用頂き、パソコンの前で頭が下がる思いでおります。

この度、全 15 曲の PDF 書籍、それから You tube 講座の全面作り直しをする事と致しました。

ピアノ初心者の方、それから、最近はコンクール課題において、小学 5, 6 年生がインヴェンションを演奏しているようです。そういった子供達にも理解出来るように制作したいと考えています。

(2019 年 3 月)

■バッハの作品を演奏するにあたって

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (*Johann Sebastian Bach* 1685-1750) は、ドイツの作曲家でバロック音楽の重要な作曲家の一人です。「音楽の父」と称される音楽家でもあります。

バロック音楽というのは、ヨーロッパにおける 17 世紀初頭から 18 世紀半ばまでの音楽の総称です。バロック音楽の作曲家は、ジュリオ・カッチーニ (1545-1618) (イタリア・ルネサンス音楽末期、バロック音楽初期の作曲家となります)、ドメニコ・スカッラッティ (1685-1757)、アントニオ・ルーチョ・ヴィヴァルディ (1678-1741)、ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (1685-1750)、ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル (1685-1759) などが上げられます。

今から 300 年くらい前の時代です。ピアノという楽器はありませんでした。ピアノの原型にあたりますチェンバロ (独: *Cembalo*, 伊: *clavicembalo*) で演奏されていました。このチェンバロは、英語ではハープシコード (*harpsichord*)、フランス語ではクラヴサン (*clavecin*) といいます。

ピアノとチェンバロの違いは、まず、チェンバロにはペダルがない事があげられます。ですので、今日、ピアノでバッハを演奏する場合にも、基本的にはペダルは使用しません。次に音を出す原理が違います。ピアノは、弦をハンマーで叩くことで音が出ます。しかし、チェンバロは、爪状のプレクトラムで弦を掻いて発音します。ですので、チェンバロではピアノのようなダイナミクスな演奏は出来ません。

それから、バッハの音楽は対位法的音楽です。多声音楽で出来ています。多声音楽の事をポリフォニー (*polyphony*) といいます。ポリフォニー (*polyphony*) の対義語としては、ホモフォニー (英語: *homophony*、独語もしくは仏語: *Homophonie*) となります。和声音楽です。

曲集に採用されています 15 調は、ハ長調ーハ短調ーニ長調ーニ短調ー変ホ長調ーホ長調ーホ短調ーヘ長調ーヘ短調ート長調ート短調ーイ長調ーイ短調ー変ロ長調ーロ短調 と 嬰へ短調、嬰ハ短調、変イ長調を除く 15 調が上行形に整えられています。(シャープ、フラット 4 つまでの調です。) このように調が整えられている事も、バッハの作品の特徴とも言えます。

Inventio 6

Johann Sebastian Bach
BWV 777

The musical score for Johann Sebastian Bach's Invention No. 6, BWV 777, is presented in five systems. The key signature is G major (one sharp) and the time signature is 3/8. The piece is written for piano in treble and bass staves. The notation includes various musical symbols such as notes, rests, and dynamic markings. The score is characterized by its intricate fingerings and articulations, including slurs, ties, and repeat signs. The piece is a single melodic line in the right hand, with the left hand providing a simple harmonic accompaniment. The first system contains measures 1-5, the second system contains measures 6-10, the third system contains measures 11-15, the fourth system contains measures 16-20, and the fifth system contains measures 21-24. The piece concludes with a final cadence in the right hand.

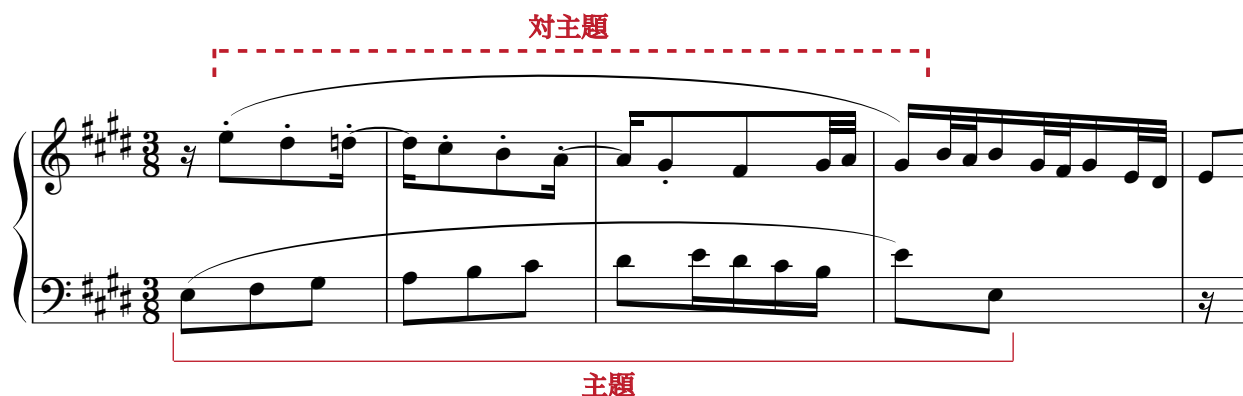
2. フレーズの演奏について

第6番は、インヴェンション全15曲の中で唯一反復記号が用いられている曲で、主題と対旋律も、今まで解説させて頂いてきました1～5番のような明確な主題と対位句ではなく、主題と対主題の2声部が組み合わされています。異色な作品と言えると思います。

主題及び対主題の8分音符の演奏は、以下のように演奏している方が殆どだと思います。



又は、対主題をノンレガートで演奏する解釈もあると思います。



主題と主題を繋ぐフレーズとして、接続句が用いられていますが、以下のように演奏して下さい。



3. 第 I 展開部の楽曲分析と演奏法について

明瞭な 3 部形式で書かれている作品で、3 つの展開部から構成されています。第 I 展開部は、1～20 小節です。第 I 展開部の中も 3 つの区分に分けて捉える事が出来ます。

A にあたります 1～8 小節。

対主題

接続句

主題

E: (A:) (E:) (A:)

主題の提示です。曲の冒頭 1～4 小節は、下声主題に対し、上声に対主題が置かれ、5～8 小節は声部が逆となり、上声に主題、下声に対主題となっています。その間を、接続句がつないでいます。調に関しましては、微妙に E dur - A dur - E dur - A dur - E dur と揺れているとも解釈出来ますが、この曲の主調である E dur (ホ長調) で書かれていると判定した方が適当と思います。

B にあたります 9～12 小節。

cis moll

Fis dur

H dur

E: H: H dur